

11月3日

市街に活気
思いのこもった演舞を披露

イベント



踊りの祭典2020（水沢駅通り商店街振興組合主催）が、新型コロナウイルス対策を取りながら水沢駅通りで開かれました。厄年連やよさこいチームなど15団体が演舞を披露。今年初めて駅通りで披露した水沢25歳厄年連「琉子幻」と水沢42歳厄年連「煌羊会」は、晴れ晴れとした表情で踊っていました。



11月4日

斎藤實の棺を記念館で公開

イベント



斎藤實記念館では、斎藤實の遺骨を納めた棺を一般公開しています。昭和11年、二・二六事件の凶弾に倒れた斎藤の遺骨は分骨され、東京と水沢で葬儀が行われました。この時水沢で使われた棺が、保管していた大林寺から寄贈され、同館では「歴史的なものであり、皆さんにお見せしたい」と常設展示に加えしました。

11月8日

読書に親しみ50年

イベント



水沢読書連絡会の設立50周年記念事業が行われました。昭和45年に設立し、文集「いづみ」の発行などの活動をしてきた同会。小野寺寛会長は「読書で魂の品格を高めていきたい」とあいさつしました。市内小中学校から募った「本とわたし」作文表彰式のほか、講演会や祝う会が行われ、節目の年を祝いました。

11月10日

「やさしい日本語」で安心して暮らせるまちに

イベント



市は外国人居住環境の充実を図るため、多文化共生推進講演会を開催しました。江刺総合支所多目的ホールで行われ、約60人の行政職員や地域代表、防災・国際交流団体関係者らが出席。講師の弘前大学佐藤和之名誉教授は、外国人住民にも情報を確実に伝えるための「やさしい日本語」の重要性を訴えました。

11月14日

夜空に輝く
イルミネーション

イベント



胆沢文化創造センターで「イルミナイト2020」が行われました。館内での亀井泉さんによる電子オルガンのコンサートでイベントはスタート。カウントダウンでイルミネーションが点灯されると、参加者は光のアーチをくぐり抜け、彩られた夜の中庭を楽しんでいました。点灯は3年1月31日まで行われます。

11月15日

郷土の伝統をつなぐ舞いを披露

イベント



第15回奥州市民芸術文化祭「郷土芸能の祭典」が江刺体育文化会館（ささらホール）で開かれました。祭典には、鹿踊や神楽保存会、江刺甚句まつり年祝連らが出演。上幅庭田植踊保存会が、小正月に五穀豊穡を祈り踊られていた田植踊りを披露したほか、各団体が地域に伝わる芸能で観客を魅了しました。

11月20日

千葉清さん100歳
（胆沢小山）

百寿



北海道ニセコ町で生まれ、30歳で故・ミヤさんと結婚。4女をもうけ、孫8人、ひ孫10人に恵まれています。酪農研修農場の教員として、20年以上酪農の発展に尽力されました。養鶏や養蚕、野菜作りなどで培った丈夫な体が長寿の秘訣と語る清さん。地域の皆さんや娘さんからの祝福を受け、笑顔で喜びました。

11月21日～23日

オンライン開催で
伝統工芸品を全国にPR

イベント



第41回南部鉄器まつり（同まつり実行委員会主催）が開催されました。今年は新型コロナウイルスの影響を受け、オンライン販売会を中心に市伝統産業会館で展示会などを行いました。同実行委員会会長の佐藤庄一さんは、「全国の人に南部鉄器を届け、良さを知ってもらえた。来年につなげたい」と語りました。

11月21日

縄文土器づくりに挑戦

イベント



学習体験会「どき☆ドキ縄文土器づくり」が市埋蔵文化財調査センターで開かれました。小学4年生以上の児童ら17人が参加。粘土をこねながら、思い思いにデザインした土器をつくり、縄や貝殻を使って模様を付けました。参加者は体験を通して、縄文時代の知識や技術の魅力に触れました。

11月22日

菊池キヨシさん100歳
（胆沢小山）

百寿



江刺稲瀬で7人きょうだいの長女として生まれました。2男2女をもうけ、孫7人、ひ孫8人に恵まれています。体を動かすことが好きで、友人と参加している100歳体操のクラブでは、最高齢表彰を連続受賞しているキヨシさん。祝福の言葉に「幸せだ、ありがたい」と笑顔を見せていました。

11月27日

石川ナヨミさん100歳
（胆沢南都田）

百寿



金ヶ崎町で生まれ、21歳で故・勇一さんと結婚。2男をもうけ、孫2人、ひ孫5人に恵まれています。毎朝新聞を読むのが日課で、長寿の秘訣は、自分のことは自分ですること。お祝いに駆け付けた息子夫婦に「普段は言えないけど、みんなのおかげ。感謝感謝」と何度も手を合わせていました。